



上奏

第十七方面軍司令官
兼朝鮮軍管區司令官
上月良夫

0860

臣 良夫

第十七方面軍並ニ朝鮮軍管區ノ
終戦ノ狀況ニ就キ謹テ上奏ス

昭和二十年十二月五日

第十七方面軍司令官 上月良夫
兼朝鮮軍管區司令官

0861

四。要塞が正當
羅津・永興灣
釜山・麗水



一、停戰前軍ノ兵力ハ地上二軍、九
師團、五師管區、二混成旅團ト
三要塞及航空一軍一師團ヲ骨幹
トシ人約二十三萬ナリ
二、八月十五日停戰ノ大命ヲ拜シ恐
懼シテ直チニ隸下ニ傳達シ誤ナ
カラシメ特ニ其ノ際交戰中ノ羅
南方面部隊ニ對シテハ特使數班
ヲ派遣シテ十九日迄ニ戰鬪ヲ停
止セシメタリ其ノ後ソノ軍ハ二十

下士官兵が正當



一日突如元山ニ上陸シ爾後急速
ニ兵力ヲ増強シテ八月末迄ニ概
ネ北緯三十八度ノ線附近ニ第一
線ヲ推進セリ同線以北ノ我軍ハ
ノ軍進駐ニ伴ヒ武装ヲ解除シ將
官ハ滿洲ノ延吉及牡丹江方面ニ
將校ト下士官トハ分離セシメラ
レテ東北鮮ニテハ羅南咸興附近
四箇所ニ西北鮮ニテハ平壤附近
二箇所ニ集結セルモ未タ復員ノ

0864

運ヒニ至ラス其ノ後ノ情況ハ不
明ナルモ若干ノ移動行ハレ或ハ
勞務ニモ服シアルモノ如シ
軍現兵力ハ四萬内外ニ達シ最近
正規軍ヲ以テ交代シ逐次軍紀ノ
振肅ヲ見ツツアルモノト推定ス
三米軍ハ進駐ニ先立チ沖繩ヨリ無
線ヲ以テ豫メ連絡シタル後九月
六日先ツ先遣隊ヲ京城ニ派遣シ
テ準備ヲ整ヘタル後八日第二十

四軍團司令官ハ第七師團ヲ率
テ仁川ニ上陸シ九日京城ニ於テ
停戦ニ關スル調印式ヲ實施セリ
同日方面軍司令部ハ京城ヲ離レ
テ大田ニ轉位シ依然米軍トノ密
接ナル連絡協調ヲ確保シツツ終
戦處理ヲ續行セリ米軍ハ九月十
六日ヨリ第四十師團ヲ釜山ニ上
陸セシメテ慶尚南北道ニ進駐セ
シメ次テ第六師團ヲ以テ仁川ヲ

0866

經テ全羅南北道及濟州島ニ進駐
セシメ十月二十日頃迄ニ概ネ其ノ
配備ヲ完了セリ此ノ間北緯三
十八度以南ノ我軍ノ武裝解除
歸還輸送及武器馬匹其ノ他ノ軍
需品ノ引渡シ等ハ整々圓滑ナル
進捗ヲ見タリ

四軍ノ復員ハ北緯三十八度以南ノ
部隊地上軍約十三萬航空軍約四
萬合計十七萬ハ十一月十五日殆シ

ト終了セルヲ以テ軍管區司令部
ハ京城及釜山ニ連絡員ヲ殘置
シテ二十一日釜山出發福岡ニ上
陸後其ノ編成ヲ縮少シ殘務ヲ處
理シツツアリ北緯三十八度以北ニ
在リテ復員シ得サル部隊ハ約六
萬三千ナリ別ニ釜山ニハ聯隊長
ノ指揮スル約五百ト陸軍病院
トカ米軍ノ指示ニ依リ殘留勤務
中ナルモ近ク是等部隊歸還セハ

0868

軍管區司令部ト共ニ復員ヲ行フ
豫定ナリ

五朝鮮ノ治安維持及日本人保護ニ
ハ細心ノ注意ヲ拂ヒツツ警備ヲ
逐次米軍ニ引繼キ間隙ナカラシ
ムル様特ニ努力セリ然レトモ從
來ノ警察ハ殆ント其ノ機能ヲ失
ヒタルヲ以テ一部不逞ノ徒輩警
察權ヲ專恣亂用シ主トシテ日本
人ノ財産ヲ奪フ等治安ハ相等惡

0869

化セルヲ以テ日本人ハ引揚ヲ急
ク情勢トナレリ軍ハ是等引揚者
ノ輸送其ノ他ヲ極力援助シ米軍
亦理解アル協力ヲ行ヒ南鮮約五
十萬ノ日本人中引揚ヲ要スル者
ハ概ネ輸送ヲ終了セリ尚朝鮮ニ
定住スル者ハ京城附近ニ一萬内
ト推定セラル然レトモ地方ニヨ
リテハ朝鮮人中思慮アル者又ハ
純朴ナル者ト親交ヲ續ケツツアル

日本人ノ事例ヲ巷間ノ美談トシ
テ散見ス然レトモ北緯三十八度
以北ノ日本人三十數萬ノ引揚ハ
努力遂ニ及ハス誠ニ恐懼ニ堪ヘ
ス寒威加ハレル最近ノ情ヲ案シ
ツツ歸還セル次第ナリ

六軍紀風紀ニ就テハ停戰ノ初期一
部ノ離隊逃亡等ヲ出シタルハ恐
懼ニ堪ヘス對米信義及對民衆軍
紀ノ確立軍需品不當處分ノ防止

等ニハ注意ヲ倍從シタルニ一部
不心得者アリシモ局部的個人的
範圍ニ止マリテ他ニ累ヲ及ホスコ
トナク大局的ニハ米軍トハ友好
裡ニ朝鮮人トハ紛争ナク皇軍有
終ノ真姿ハ充分米軍ニ示シ得タ
ルモノト信ス
七俘虜關係事項ハ現地米軍ノ調査
畧々終了セリ米軍飛行機塔乗員
ノ鮮内降下者ハ停戦直前二名ア

リタルモ一般俘虜ト共ニ米軍仁
川上陸直後無事引渡セリ

之ヲ要スルニ北鮮ニ於テハソ軍ノ
急速ナル台領ト共ニ我方ハ軍ノ武
装ヲ解除シ集結セルノミナルモ南
鮮ニ於テハ武装解除・歸還輸送復
員及日本人引揚ノ處置等ヲ略々終
了セリ此ノ間將兵一同ハ大命ヲ
奉シ一意其ノ任務ヲ遂行シ茲ニ朝
鮮軍四十有二年ノ歴史ヲ終ルコト

トナレリ 臣等 大御心ヲ奉戴シ國體
ヲ護持スヘキ大任ハ今後ト雖懸ツ
テ雙肩ニアルヲ思ヒ臥薪嘗膽未曾
有ノ國難打開ニ邁進センコトヲ期シ
アリ

0874